

## 組合長と児童が稲刈り



J A筑紫の白水清博組合長とJ A青壮年部は10月3日、春日市立大谷小学校5年生の児童に稲刈りの授業を行いました。児童の食農教育をサポートする目的で、約20年続いています。

刈り取る稲は、6月に植えた「元気つくし」。白水組合長は、鎌の使い方や刈り取り方を説明しました。児童は、1株ずつ丁寧に稲を刈り取り、初めて稲刈りをした児童は「最初は難しかったけれど、とても楽しく稲刈りができました。早くお米が食べたいです」と笑顔で話しました。

この授業は、大谷小学校の5年生を対象とした総合的な学習の一環。農作業を体験できるように、校内に「専用田んぼ」を設けています。今回の稲刈りにあたって、児童は授業の合間に稲の成長を観察するなど、熱心に取り組んでいました。

刈った稲は、その場でコンバインに入れ脱穀。日陰で5日ほど乾燥させ籾摺りをした玄米は精米し、給食の時間に味わう予定です。

井上文美校長は「今回の体験授業で、農業への関心と理解がより深まると思います」と期待しました。

白水組合長は「稲刈りを楽しんでもらえてよかったです。児童たちにとって貴重な経験になると嬉しいです」と話しました。

## 体験を通して担い手づくりに貢献



福岡県農地・水・環境保全協議会で活動する「美の郷西小田」は10月6日、筑紫野市西小田地区などの小学生以下の子ども達を対象に「稲刈り体験&田んぼの生物調査」を開きました。幼児や児童17名をはじめ、構成員やJ A筑紫筑紫駅前支店職員などが参加しました。

「美の郷西小田」は、同地区の生産者やシニアクラブなどで構成。農業体験や生物調査で子ども達と親睦を深め、地域環境を理解してもらい、地域の良さを伝えたいと毎年開いています。

代表の藤井徳浩さんが稲の刈り方や田んぼにいる生物を説明。参加者は構成員に教わりながら慣れない手つきで稲を刈ったり、生物を観察したりしました。収穫後、刈り取った籾を見ながら「初めて籾を触った」

「どうやって白米になるの？」など構成員へ興味津々に話しました。

藤井さんは「体験を通して一人でも多くの子ども達に農業へ興味を持ってもらい、次世代の担い手づくりに貢献できたら嬉しいです」と話しました。

## 稲の収穫に感謝・太宰府天満宮



太宰府市の太宰府天満宮齋田で10月7日、実った稲穂を刈り取り神々に収穫を感謝する伝統神事「齋田抜穂祭」がありました。神職や氏子、地元の農業関係者の代表が参加しました。

齋田横に設けた齋場での祭典では、齋主が齋田に入り、古式の作法に沿って石包丁で稲穂を刈り取り、天満宮の巫女（みこ）が「悠久の舞」を奉納。その後、菅笠にもんぺ姿の巫女（みこ）や氏子らが稲を収穫しました。

米は、6月11日の齋田御田植祭で植え付け、大切に育ててきたものです。11月の新嘗（にいなめ）祭で最初にお供えします。その後、天神さまへの朝夕のお供えや、太宰府天満宮の全ての祭典や神事で使う予定です。

## 安全安心まちづくり・13年連続受賞



J A筑紫は10月11日、春日市で開かれた2022年筑紫地区安全安心まちづくり推進大会において「筑紫地区安全安心まちづくり推進協議会長賞」など3部門で受賞しました。

大会は、筑紫地区安全安心まちづくり推進協議会などが主催。一人ひとりが地域安全運動の担い手として、犯罪などを抑止することを目的としています。協議会の井上澄和会長から、J Aの船越勝典専務が表彰状を受け取りました。

J Aは、08年2月に「J A筑紫安全安心まちづくり隊」を結成。福岡県の「みんなで防犯応援隊」や「ニセ電話気づかせ隊」などに登録し、公用車によるパトロール活動をはじめ、渉外担当者による地域の防犯活動やニセ電話詐欺の防止などを積極的に行っています。また、組合員向けのJ A広報誌に毎号、安全安心まちづくりについての情報を掲載しています。今回の受賞は、これらの活動が評価されたものです。

大会には、県議会議員、春日警察署や筑紫野警察署、地域防犯ボランティア活動団体・事業所、J A筑紫役職員など約260名が出席しました。

## 青壮年部が稲刈り授業をサポート



ＪＡ筑紫青壮年部は１０月１２日、筑紫野市立山家小学校３、５年生の児童と共にもち米の稲刈りを行いました。この取り組みは、同校の総合的な学習の一環。同青壮年部や、ＪＡ山家支店、地元農家のＪＡ理事などが児童の食農教育のため毎年サポートを行っています。

部員が鎌の使い方や刈り取り方を説明。児童は田んぼに入り、１株ずつ丁寧に稲を刈り取りました。初めて稲刈りをした児童は「とても楽しかったです。もっと刈りたい！」と話しました。

収穫したもち米は、餅にして児童達が味わう他、１１月同地区で行われる「山家宿まつり」で振舞う予定です。

## 来店者に呼びかけ・二セ電話詐欺撲滅



ＪＡ筑紫は１０月１４日に、筑紫野地区の各支店・出張所で来店者に二セ電話詐欺撲滅の注意喚起を行いました。

この取り組みは、ＪＡが取り組む「ふれあい活動」の一環で、福岡県内での二セ電話詐欺の増加を受け、管内の筑紫野警察署と共同で行ったものです。

ＪＡ二日市支店では、警察署員とＪＡ理事、職員が参加し、ＡＴＭでお金を振り込ませる還付金詐欺などの注意を促すチラシやティッシュを来店者に配りました。

二日市支店の近藤裕之支店長は「組合員の大切な財産を守るため、今後も呼び掛けを続け、未然防止に努めたいです」と話しました。

ＪＡはこれまでも地域の防犯活動など積極的に取り組んでおり、ＪＡが掲げる「地域の活性化」へ貢献し、地域に必要とされるＪＡを目指しています。

## 仲間と楽しくみそ作り



JA筑紫女性部は10月28日、春日市在住の女性を対象に、みそ作り体験教室を開きました。この取り組みはJA女性部が進める部員拡大プロジェクト「仲間づくり企画」のひとつ。みそ作りを通じて、食と農への理解を深めてもらい、女性部への加入促進を図ることが目的です。

講師はJA女性部員の香月文子さんが務め、一般応募より集まった13名と部員5名にみそ作りの手順を説明しました。参加者は煮大豆をつぶし、筑紫野市の山口農産の塩麹こうじを使って、みそが出来るまでの手順を学びました。

さらに、一般応募者へ向けた活動紹介DVDの上映を行い、女性部加入促進活動に取り組みました。

参加者は「みそ作りに興味があり参加しました。これを機に、JAの女性部を知ることができよかったです」と話しました。